

我思ふ

ESSAY

宗宮 重行

①

ローマは一日にしてならず

ローマは一日にしてならず，

Rome was not built in a day.

私はこの言葉が好きである 世界の歴史のなかで 名言 名句として人々によく知られている。

古代の都市国家ローマがエトルリア人の支配を脱したのは前六世紀のことで、その後、約

500年を経過して全地中海世界を制圧した。

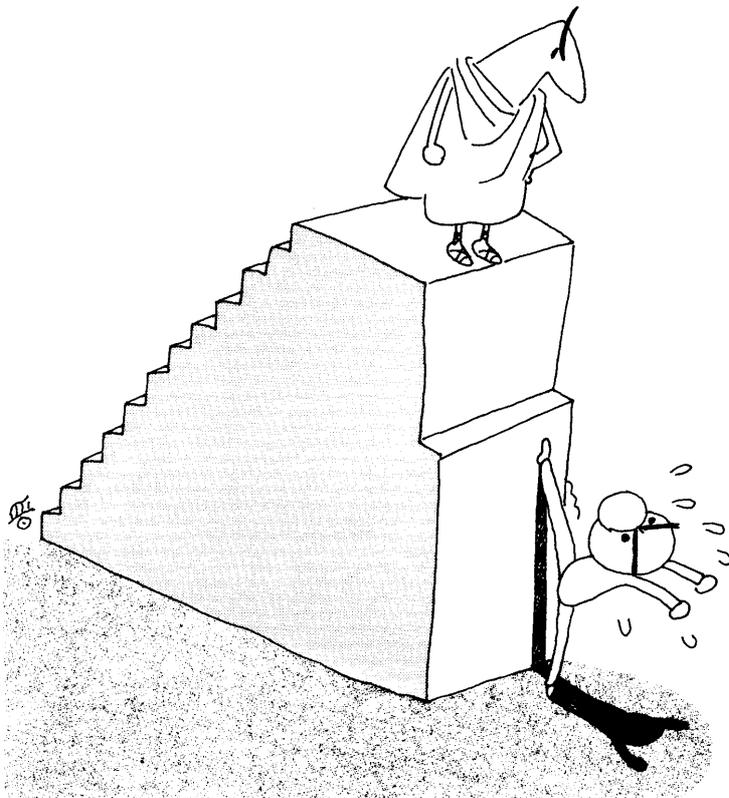
その間には仲間のイリア人との抗争、カルタゴ、ギリシャ、ケルト人との争いの後に、地中海を制圧した。

目標をきめ、いく度の失敗にも抱らず、粘り強く、正攻法で着々と目的を達していく。科学や技術の進展にはひらめきも必要だが、

一步一步と着実に進歩の積み重ねも大切である。特に技術の進歩発展にはこの点が重要と私は考えている。

ローマは一日にならずは、スペインの作家セルバンテス(1547-1616)(横山紘一:ローマは一日にしてならず、岩波ジュニア新書 91,1991 第1刷)といわれている。

長い年月の辛苦と努力、その上でのみあげられた業績と栄光、それは長く歴史に記録される。科学と技術の業績は長く人々の胸に記録される。



イラスト・外村晋一郎